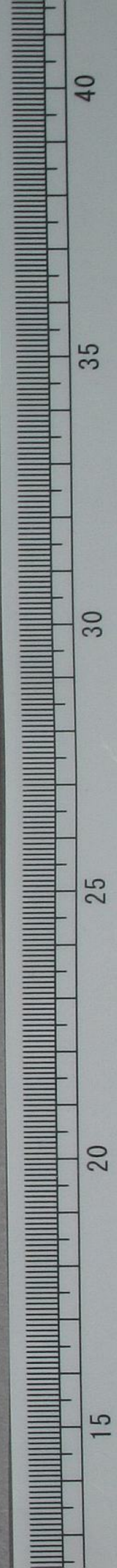


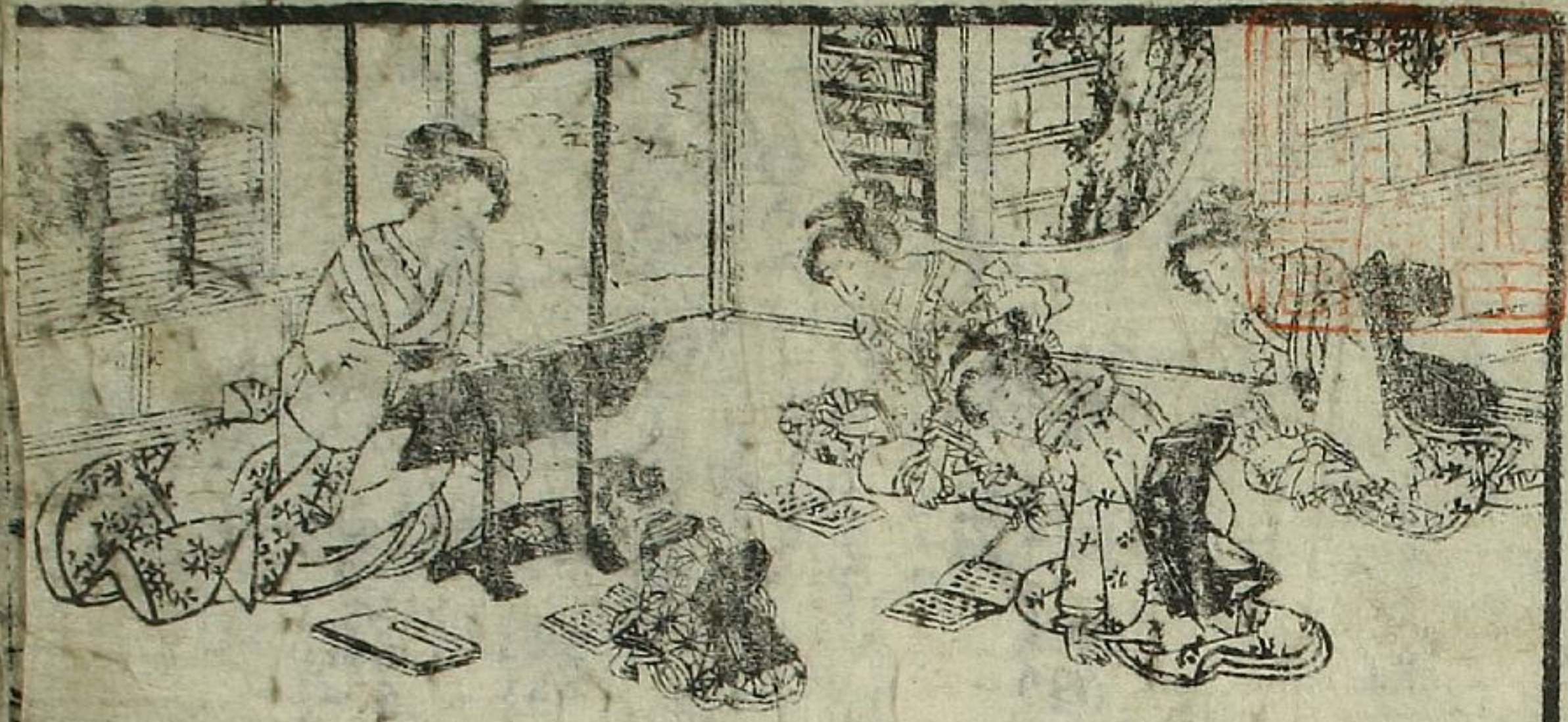
御覽

Handwritten text on a paper label, including the characters '正徳' (Shōtoku) and '御覽' (Gōkan).

113
937



113
937



天智天皇
秋の田れ
の
魔の
我
つり



二神

大日明神

乃之

本大明神

乃

玉津嶋大明神

乃





今日 不
 春風 一時
 神 一
 風 や



柿本入磨
 尾の
 志
 ひ

吉書詩秋
 赤夜
 万歳
 長生
 不老
 君の代
 いける



春
 夜
 天
 山



善山 梅屋 柳亭
 先動池有波
 文水盡用
 柳亭 柳亭
 先動池有波
 文水盡用

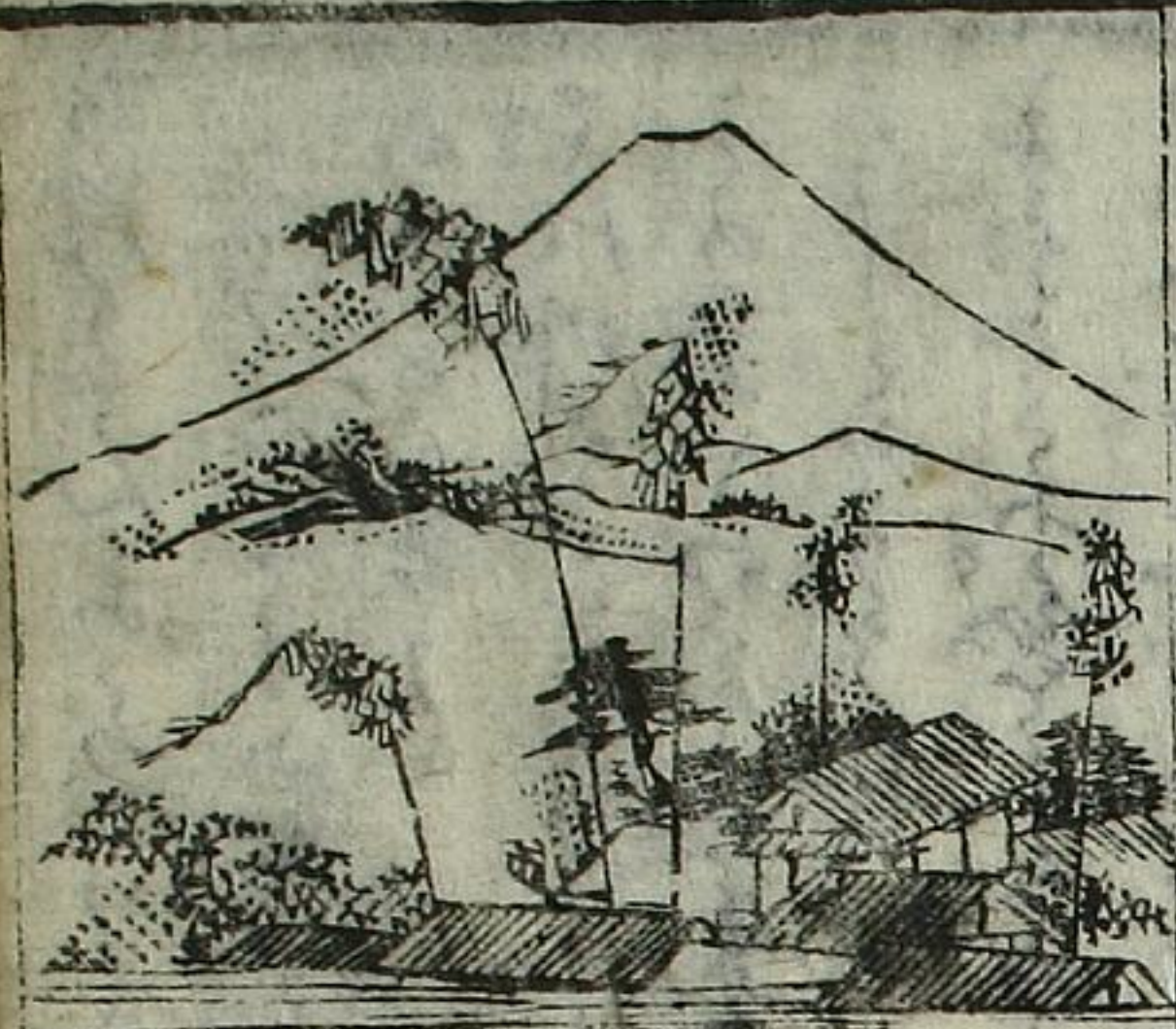
池東東頭風度
 解意梅北面
 封美
 わづきれと平紙
 先動池有波
 文水盡用



秋の聲
 奥山
 猿尾衣
 秋の聲
 奥山
 猿尾衣



山色赤人
 田子清
 白妙の
 山色赤人
 田子清
 白妙の



重宝此を風洞
 息鳥能格連活
 往来
 幸とありあやふ
 十ととたれども
 かるよのうぶぞ
 とくふりくふ



天乃原
 安治仲磨
 如
 三巻の
 舟も

七夕清
 水得少年
 竹竿我係
 柳を此の夜と
 うきうきや
 此後昨夜
 及二
 源不
 あさくぬ焚く
 天の川
 香煙かきよ
 くらたのし



中納言家持
 糖の
 少
 白きと
 秋と文お今る

ちがうらんあらくぞつき
 こころこれとよせまじ
 あつりのきこつこ
 これ川あまそらながし
 このおはやわすねまの
 こしとわうらひ
 まふをふかぬてんや
 うふくをいまいあまの
 うまうりふけあ
 けのしふあそとわら
 いあつとつれづれの
 こころまはふ
 天川をわぶらきま
 むらしのとまよかりこ
 うたうそけんか

喜撰法師
 我庵と
 ぬきん
 志を
 うら
 よと
 人びら


天川ながし川
 こころ
 七夕の逢ふ夜のたふ
 かくあう乃わらうひま
 うらふのいと
 たつとつをまひらちふ
 くれしをてたれつあ
 こころまはふ
 うらふのいと
 うらふのいと
 うらふのいと
 うらふのいと

花の色
 うけり
 こころ
 花の色
 うけり
 こころ
 うらふのいと


○二月

はねは
野山の
一日
花
あけ
のり



僧心通船

玉津舟

まはらふ

吹

とら

少女の

あけ

○二月

花
あけ
のり
あけ
のり
あけ
のり



陽成院

藤羽根の

峯より

あけ

とら

意を

あけ

あけ



○八月
 菖蒲の借
 沙あき
 和子
 知の



○八月
 一
 山
 特
 年



九月
 菊の香
 山崎の菊
 秋の風
 今宵
 月



八月
 秋の風
 今宵
 月



○十月
 一筆
 娘
 沙
 待



○十月
 重
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十



○十二月

御し... 御中...

いかに外の

いん... せい...

あは...

あは...

あは...

あは...

あは...

あは...

文彦康秀

吹くふ秋の

草木れ

あは

あは

あは

あは

あは

あは

あは



鏡の由来

鏡の由来... 天照大神...

鏡の由来... 天照大神...

鏡の由来... 天照大神...

鏡の由来... 天照大神...

鏡の由来... 天照大神...

鏡の由来... 天照大神...

鏡の由来... 天照大神...

鏡の由来... 天照大神...

鏡の由来... 天照大神...

鏡の由来... 天照大神...

鏡の由来... 天照大神...

大いふ里

月ひさし

あまの

と

う

れ

我

秋

あま

あま



あつて... 時を人
 取らざる...
 事... 人
 の後...
 とつ...
 大張...
 のみ...
 加這



貞信公
 小倉山



人間生流の流義

生れ... 七...
 の日...
 せる男...
 八右の...
 の男...
 氏...
 初...
 と...
 におり...
 あけ...
 位...
 い...
 殿...
 上...
 氏...
 上...
 氏...

中細云道輔
 凡が北原



徳義の男子又兼の十二月十二
 日あり危のあり入るる
 被初ハ女若菜の十二月十二日
 男女ともハ八歳より子智
 元服十八六歳よりす之服
 此の旨ハ入る一五年より
 若菜よりハ和名を名わら
 る也女ハ奥多とて眉成
 しては画ハ之を膝膝よりて眉
 とらん年半さへ通る程を
 くれどももさへハ格古年
 娘の初ハ別していつとある
 手眼お度小のありハ一

源宗子朝臣
 山さとは
 冬そ
 海さるる
 人めも
 かきぬと
 草も




男女名類
 本性 女後重筆
 辨筆 兼武兼八
 繁民 奉紋文五海
 辨伴 末印馬芳唐
 半袋 多勢不岐麻
 梅牧 明保漢才而

凡河内祈恒
 あはれあま
 ねん
 ねん
 志る菊
 ねん



大性 未龍 國 古 後 銀
 令 吟 久 琴 桑 義 多
 經 系 龍 駒 覺 光 欽
 竟 學 冥 奉 考 著 第
 元 源 迥 谷 弓 義 峻
 幼 宏 龜 掄 嘉 文 奕
 鶴 牛 玉 來 道 九 級
 土 性 漢 陸 力 在 於
 扇 桑 隨 陸 陸 林 浪
 宅 任 剛 貞 定 續 庭
 忠 伸 遠 竹 六 邦 達
 理 利 里 治 猪 堂 丈
 大 左 多 茶 鉄 毛 結
 榮 達 傳 長 良 來 和



金性 美 性 順 音 乙 統
 雅 翰 字 數 永 慈 友 統
 勢 齋 為 唯 表 衣 依 友 統
 与 寅 虎 擊 一 引 表 衣 依 友 統
 和 花 律 棠 英 以 嬰 好 盈
 益 中 祐 揚 用 盈 好 盈

坂上是則
 物ほほき
 芳輝の
 志くき



紀女則
 久々
 の
 けき
 去れ目
 志の心なく
 花のまらん



水姓
 天子將軍又ハ...
 御傳の字ハ必ス...

春道列樹
 山河子
 風の
 志
 海
 志みら



○男本女本をいふものなり
 子外へあそびてふ
 せむしんしてさるわさ
 わいそあてのいああ
 まんまはひとあはは

○男本女本をいふものなり
 命なりとあそび
 まんまはひとあはは
 まんまはひとあはは



○男本女本をいふものなり
 まんまはひとあはは
 まんまはひとあはは

○男本女本をいふものなり
 まんまはひとあはは
 まんまはひとあはは



清原深春父

夏は疾ハ

青

あはは

雲のいつこ

月夜から



又夏期康

あはは

吹

秋乃

あはは

あはは



○男火女本大...
 ...
 ...

○男火女本大...
 ...
 ...



○男火女本大...
 ...
 ...

○男火女本大...
 ...
 ...



忘るる
 思ふ
 杯心
 人の命
 ...

泰議
 ...
 ...

○男土女舎大守一五人
 わり田々さう畑とふすり子ふ
 花の林さうさう心さうさう
 子さうさうさうさうさう
 さうのさうさうさうさう

○田力土女水あわさる
 何でも何なまそのさう
 おさやうわかやさう
 さうさうさうさうさう



○男土女水すさうさう
 まうさうさうさう
 又人あう侍の林さうさう
 さうさうさうさうさう

○男土女水さうさう
 さうさうさうさう
 さうさうさうさう
 さうさうさうさう



平兼盛

忠あさ

さう

新さう

おや押さう

人のさう



土生忠見

忠とてぬ

我ら名

さう

さう

人志さ

押の死さ



○男全女入主エホわく子
 一卦人あふ一やむひととま
 大林と作す一後へる一
 いふせんかろさつれあ申ふ
 こころのすくなくまひこころ

○男全女水大ふう一子入
 ふきこころ一命なき一
 こころか一命と作てんま
 こころもくもひもひも
 まのまもくもまもくも



○男全女水大ふう一子入
 あまもくもく人あまもくも
 一命のまもくも
 在中ふくひもあれれ
 つはふくもくもくも

○男全女水大ふう一子入
 人あまもくも命もくも
 こころのまもくも
 ひもくもくもあまもくも
 つはふくもくもくも



清原元輝
 ちとるまきれ
 うるんに



中納言敦忠



後北の
 心も
 くら
 びり
 おのこころ
 々々

○男水女水大なりみんら
 九人あきりて天中より神
 たりわんまつくつひんり
 つく人もほひそそやあそ
 用いそひつたうらうら

○男水女水すしる八人あ
 けりて一貴あつら
 わりうら神とあか
 るあつらあつらあつら
 わりあつらあつらあつら



○男水女水子三人七人あり
 けりてあつらあつらあつら
 けりてあつらあつらあつら
 けりてあつらあつらあつら
 けりてあつらあつらあつら

○男水女水大なりみんら
 九人あきりて天中より神
 たりわんまつくつひんり
 つく人もほひそそやあそ
 用いそひつたうらうら

○男水女水大なりみんら
 九人あきりて天中より神
 たりわんまつくつひんり
 つく人もほひそそやあそ
 用いそひつたうらうら



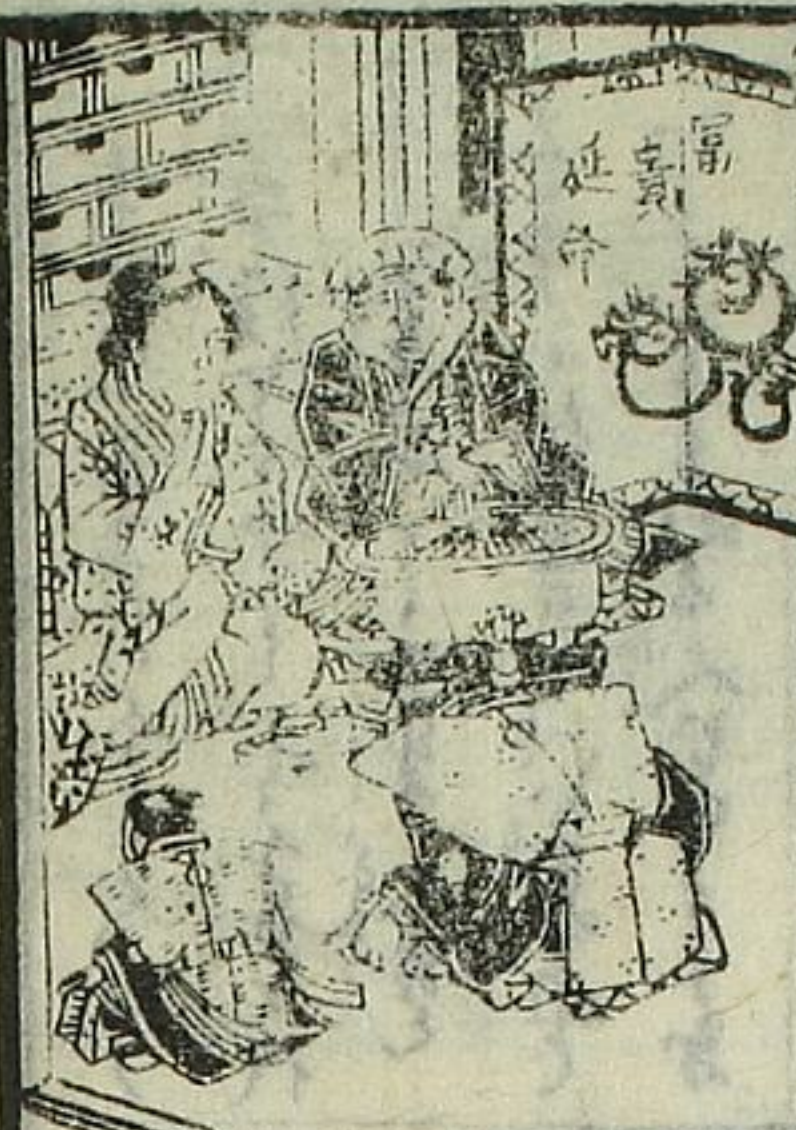
中納言朝忠
 あふ幸の
 絶く
 中
 人を
 うらみけほ



徳徳公
 あつら
 りふべき
 人の
 ありぬつら

○男水女土大子あり子口人
あつてまがきかろくせし
しつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて

○男水女土大子あり子口金
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて



そ 孫の 忠
曾孫好忠

ゆ 舟の

り 舟の

か 舟の

り 舟の

舟乃乃乃乃乃



日 魚十世の半

日 魚十世の半
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて

恵慶法師

ハ 舟の

あ 舟の

あ 舟の

あ 舟の

あ 舟の

秋 舟の



新改正徳令

父母	三月十日	臘十月
夫	四月十日	四月十日
妻	四月十日	四月十日
嫡子	四月十日	四月十日
庶子	四月十日	四月十日
妻の父母	四月十日	四月十日
継父母	四月十日	四月十日
母方の父母	四月十日	四月十日
父方の父母	四月十日	四月十日
兄弟	四月十日	四月十日
姉妹	四月十日	四月十日
末孫	四月十日	四月十日

源重之



風をいし
 岩の
 うの
 流の
 おのま
 乃と
 くけく
 おと
 おもはらうか

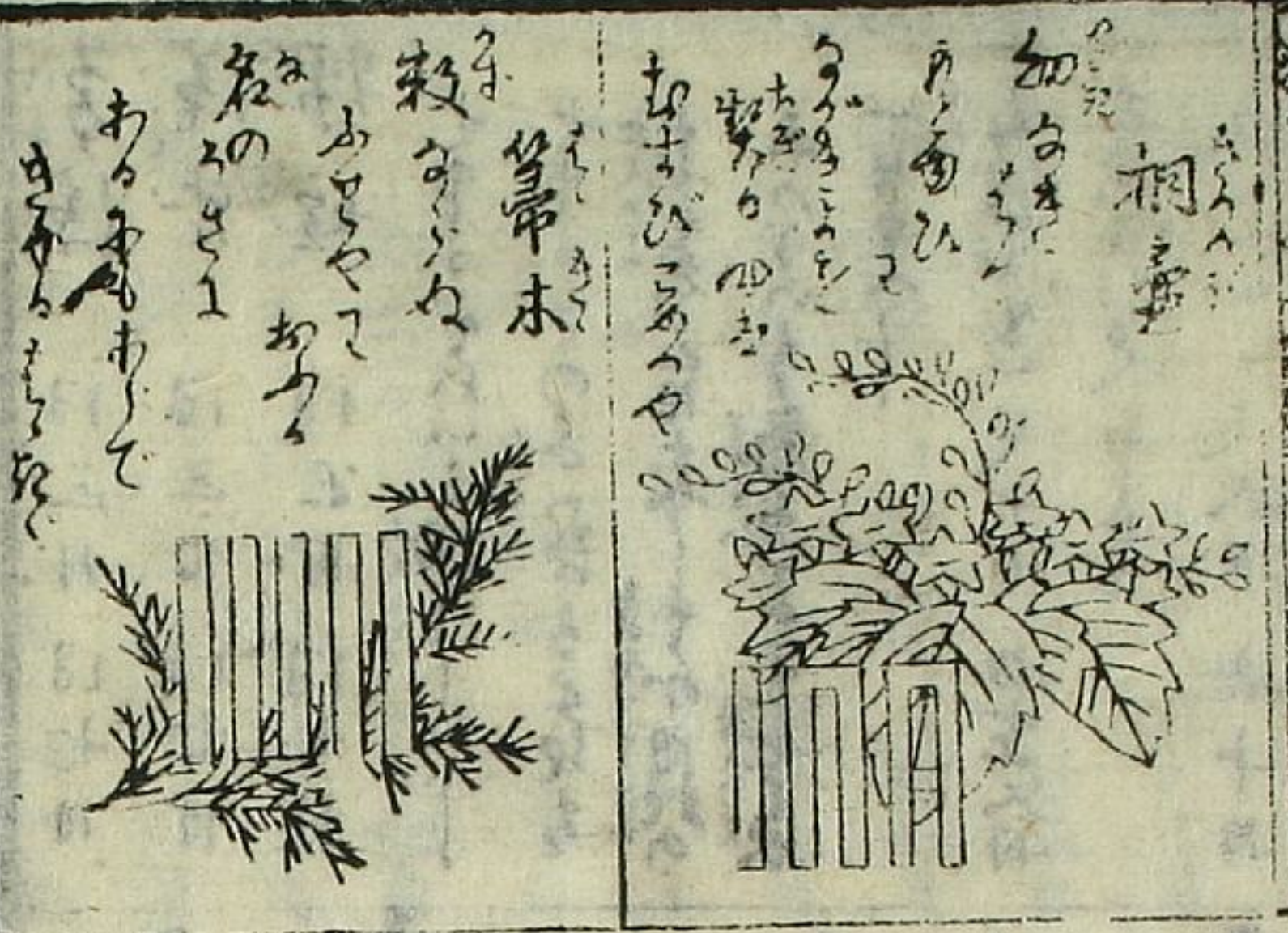
大申后徳宣朝臣



火の
 夜ありえ
 ひのは清つ
 物成る

一 正月十日 臘十月
 一 二月十日 臘十月
 一 三月十日 臘十月
 一 四月十日 臘十月
 一 五月十日 臘十月
 一 六月十日 臘十月
 一 七月十日 臘十月
 一 八月十日 臘十月
 一 九月十日 臘十月
 一 十月十日 臘十月
 一 十一月十日 臘十月
 一 十二月十日 臘十月

源氏香の圖引致



藤原義孝

君の爲

知

命

まづも

知のひらり

のれ



藤原實方朝臣

かくとま

るわ

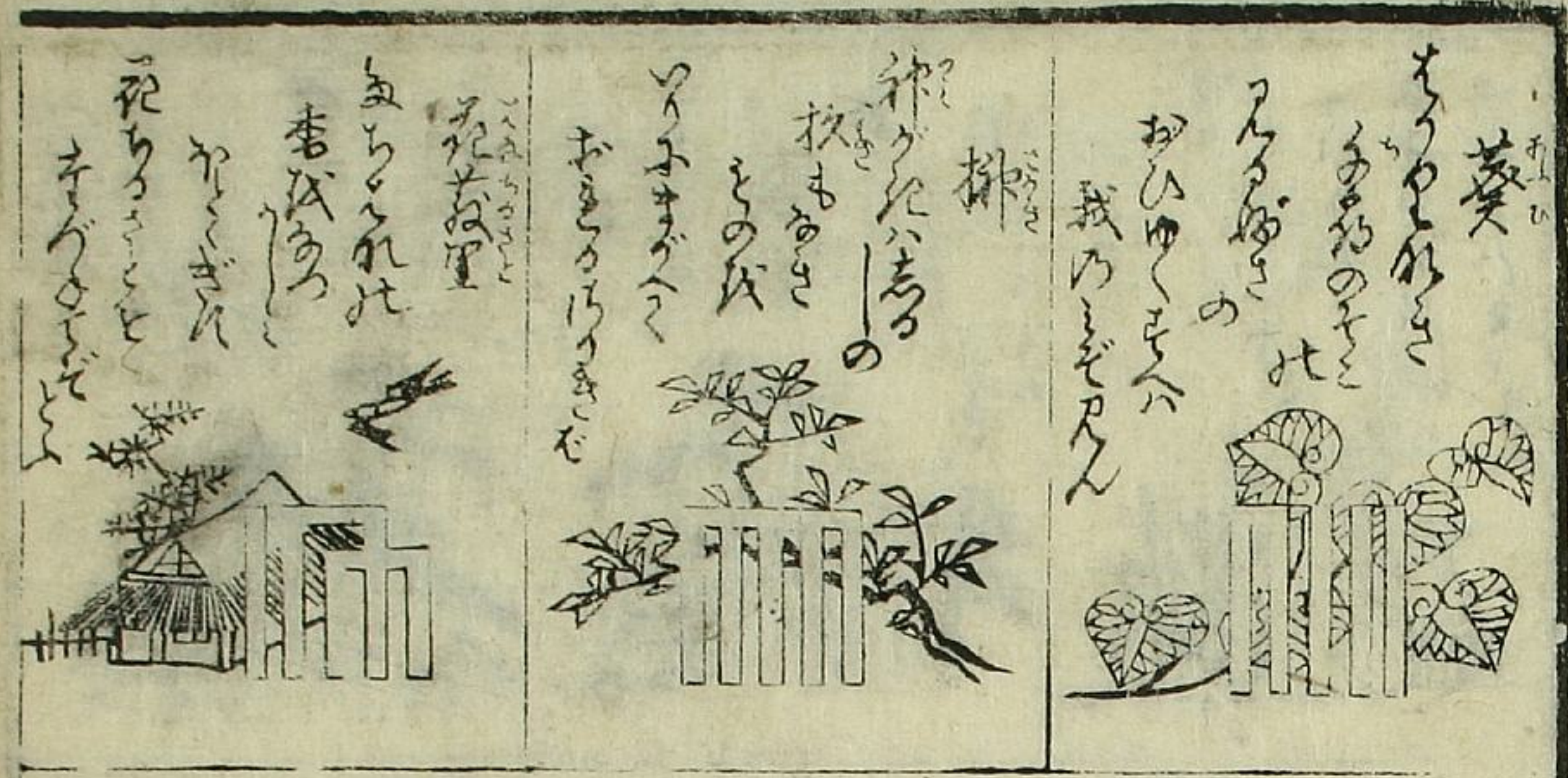
この

は

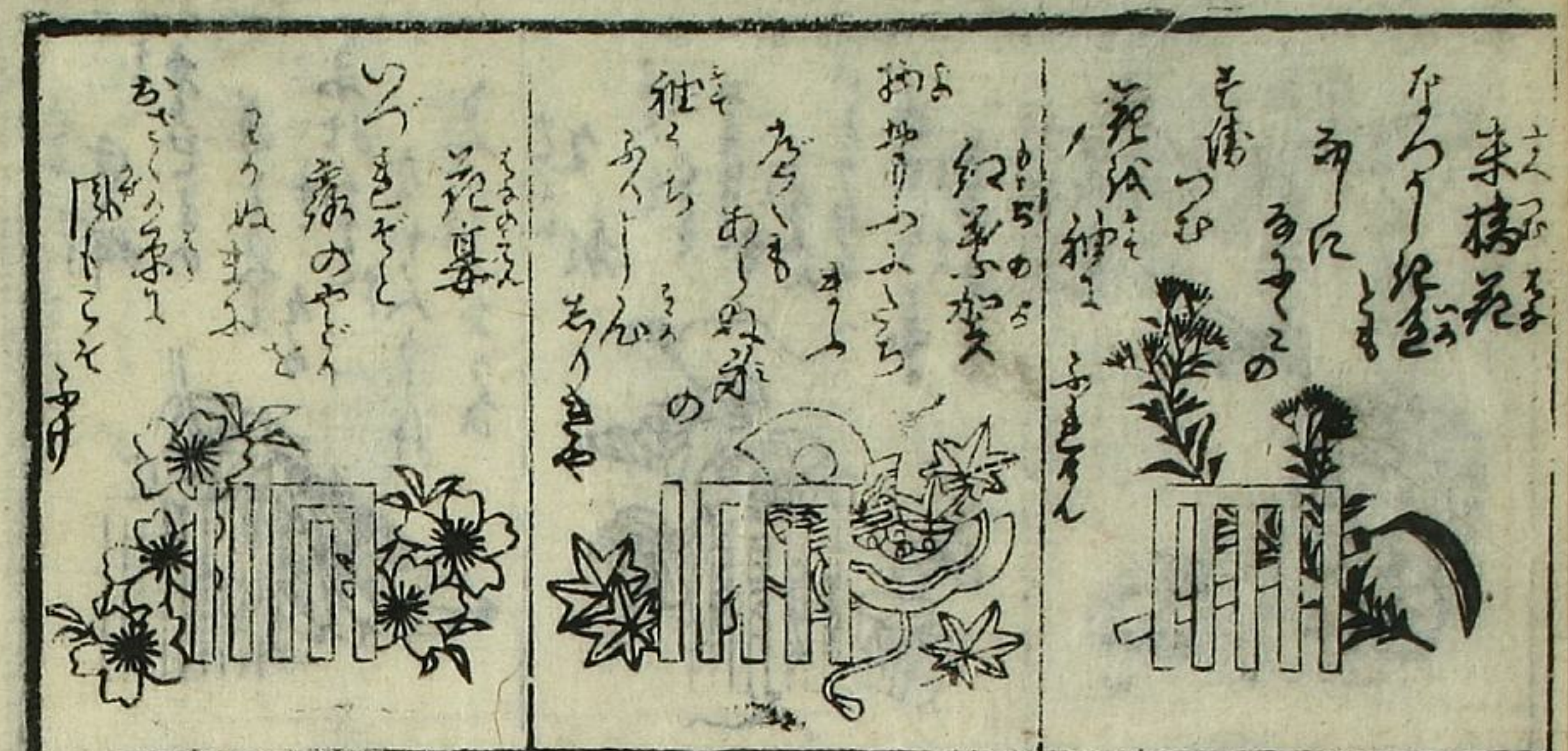
まづも

志

のり



秋きほ
 ひろなる
 秋のは
 ひろなる
 秋のは
 ひろなる
 秋のは
 ひろなる
 秋のは
 ひろなる



春原道徳
 春原道徳
 春原道徳
 春原道徳
 春原道徳
 春原道徳
 春原道徳
 春原道徳
 春原道徳

蓬生 蓬生 蓬生
 園庭 園庭 園庭
 繪合 繪合 繪合
 其の 其の 其の
 中と 中と 中と



櫻標 櫻標 櫻標
 我の 我の 我の
 時 時 時
 ありの ありの ありの
 男の 男の 男の
 石 石 石
 ありの ありの ありの
 ありの ありの ありの
 ありの ありの ありの

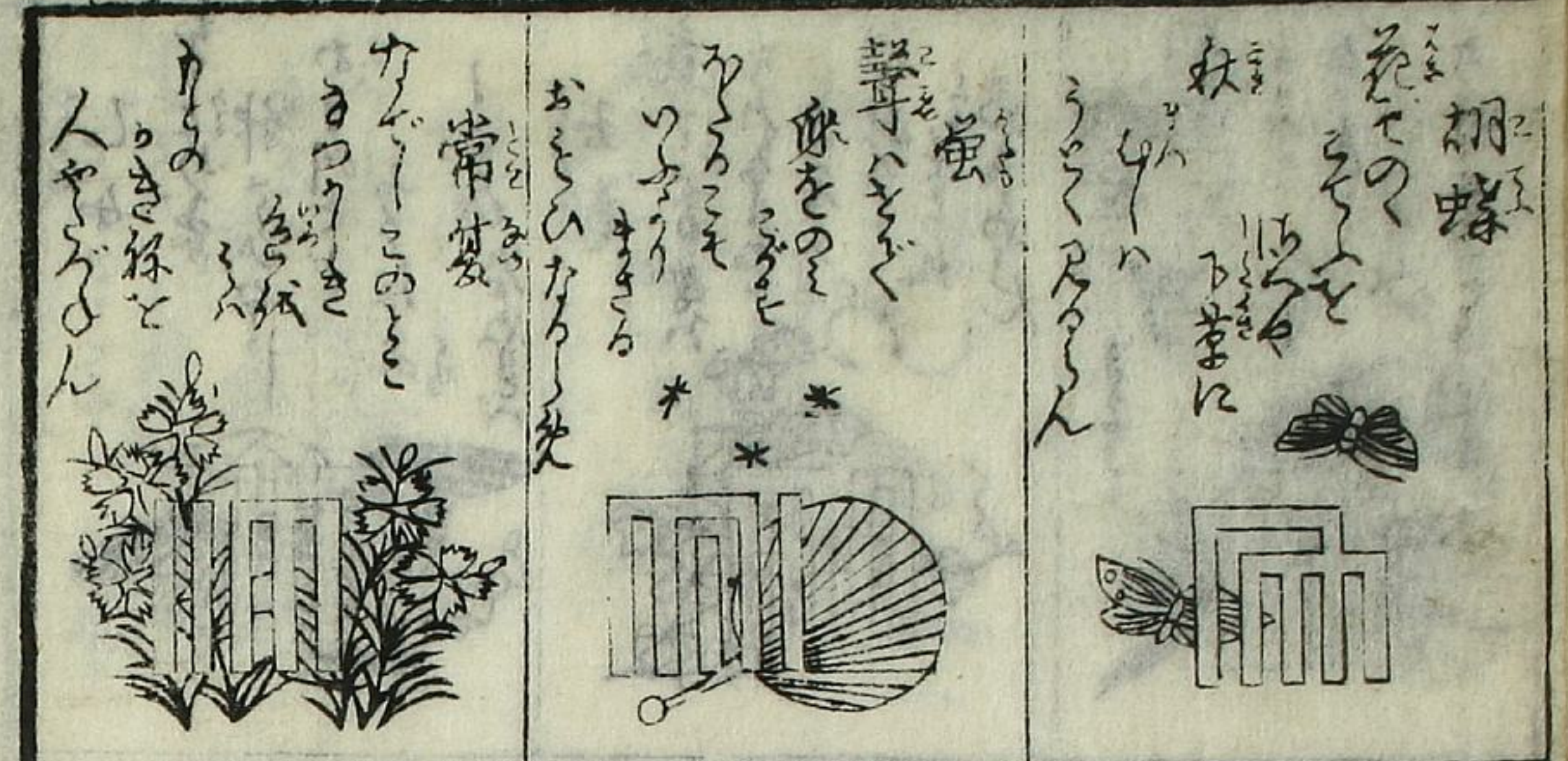


乙女
 玉簪
 松風
 月か
 今更の
 月か



松風
 月か
 今更の
 月か







そのまじり
月
あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ
あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ
あまのこ
あまのこ



伊勢の
伊勢の
伊勢の
伊勢の
伊勢の

あまのこ
あまのこ
あまのこ
あまのこ
あまのこ



あまのこ
あまのこ
あまのこ
あまのこ

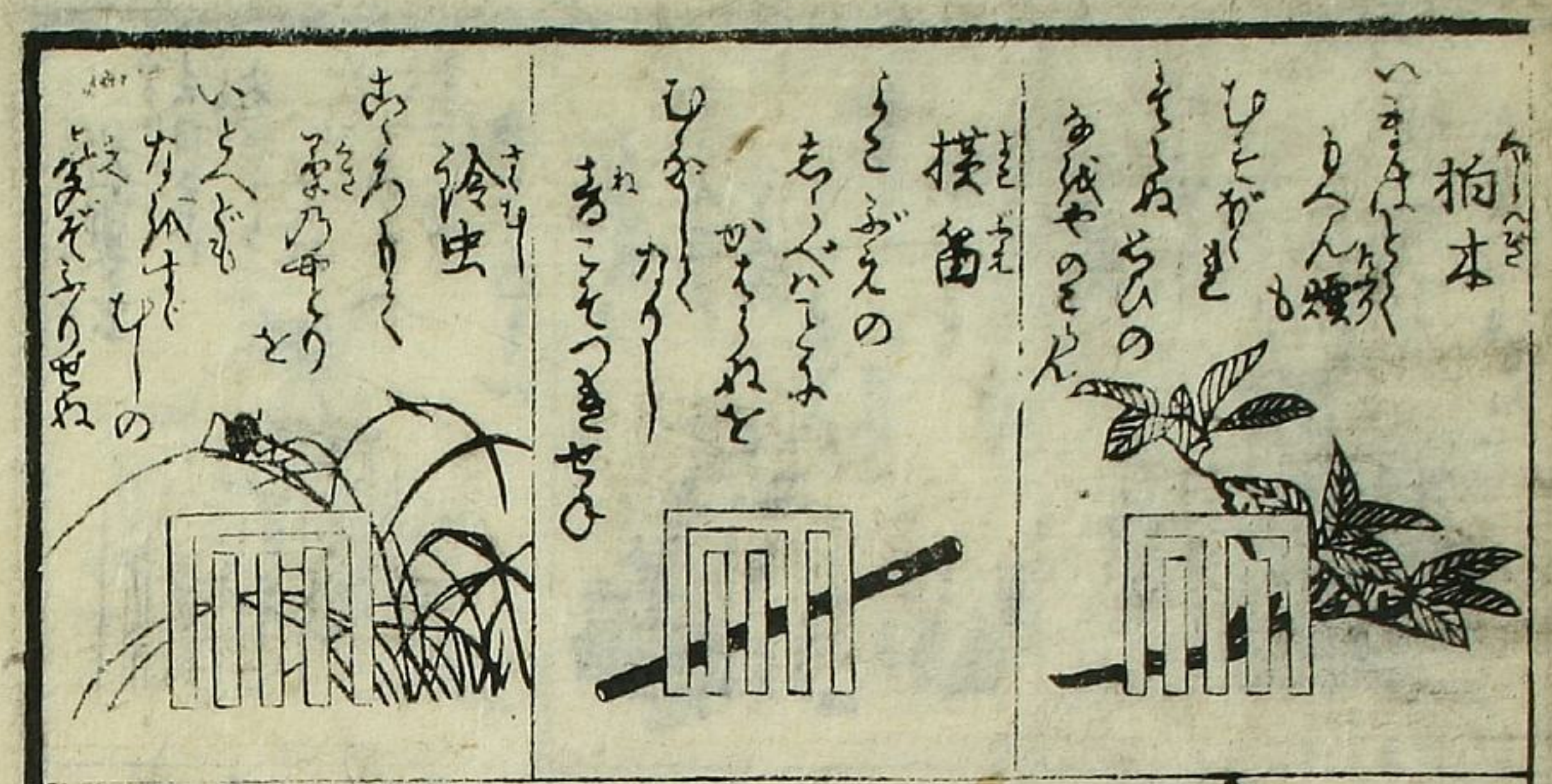
あまのこ
あまのこ
あまのこ
あまのこ

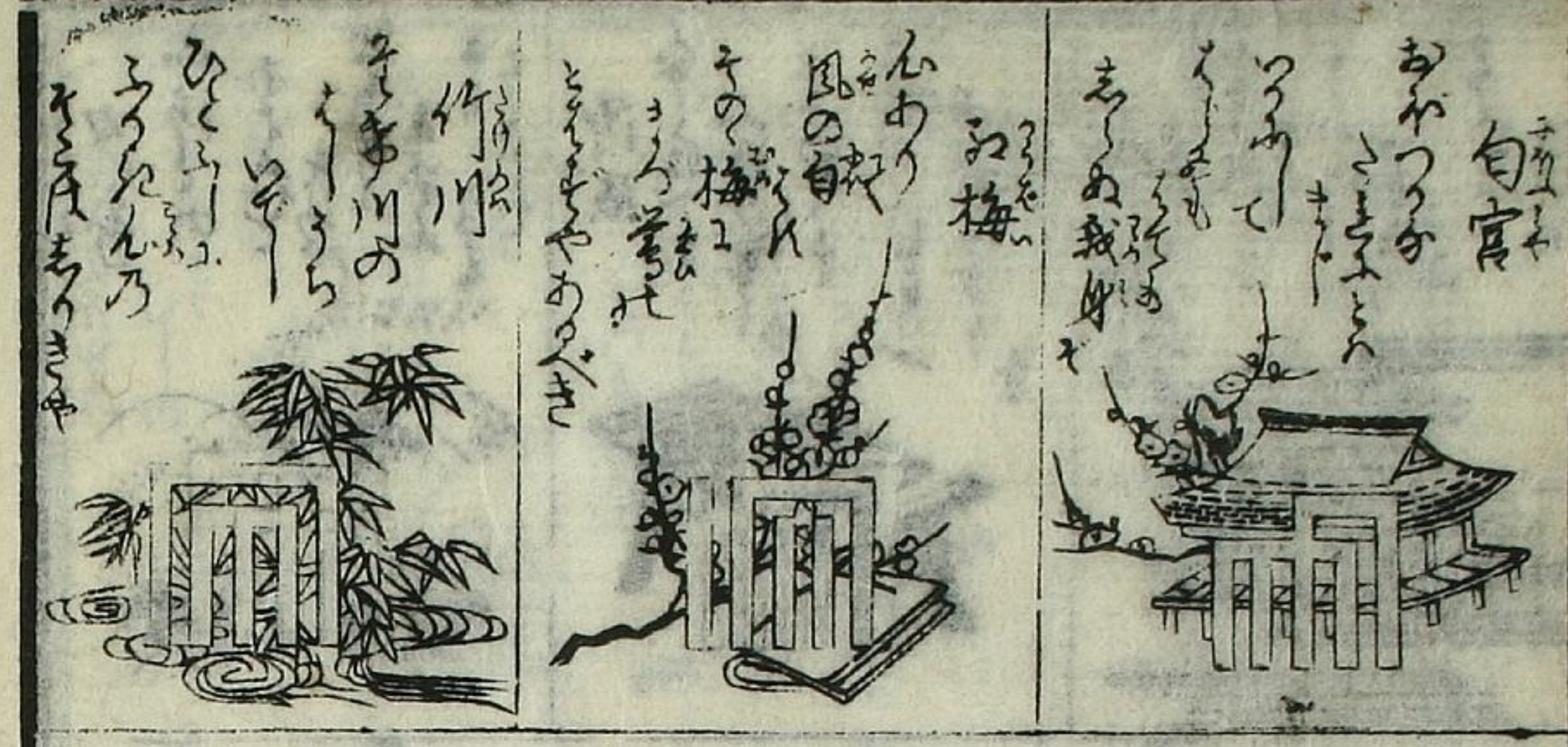
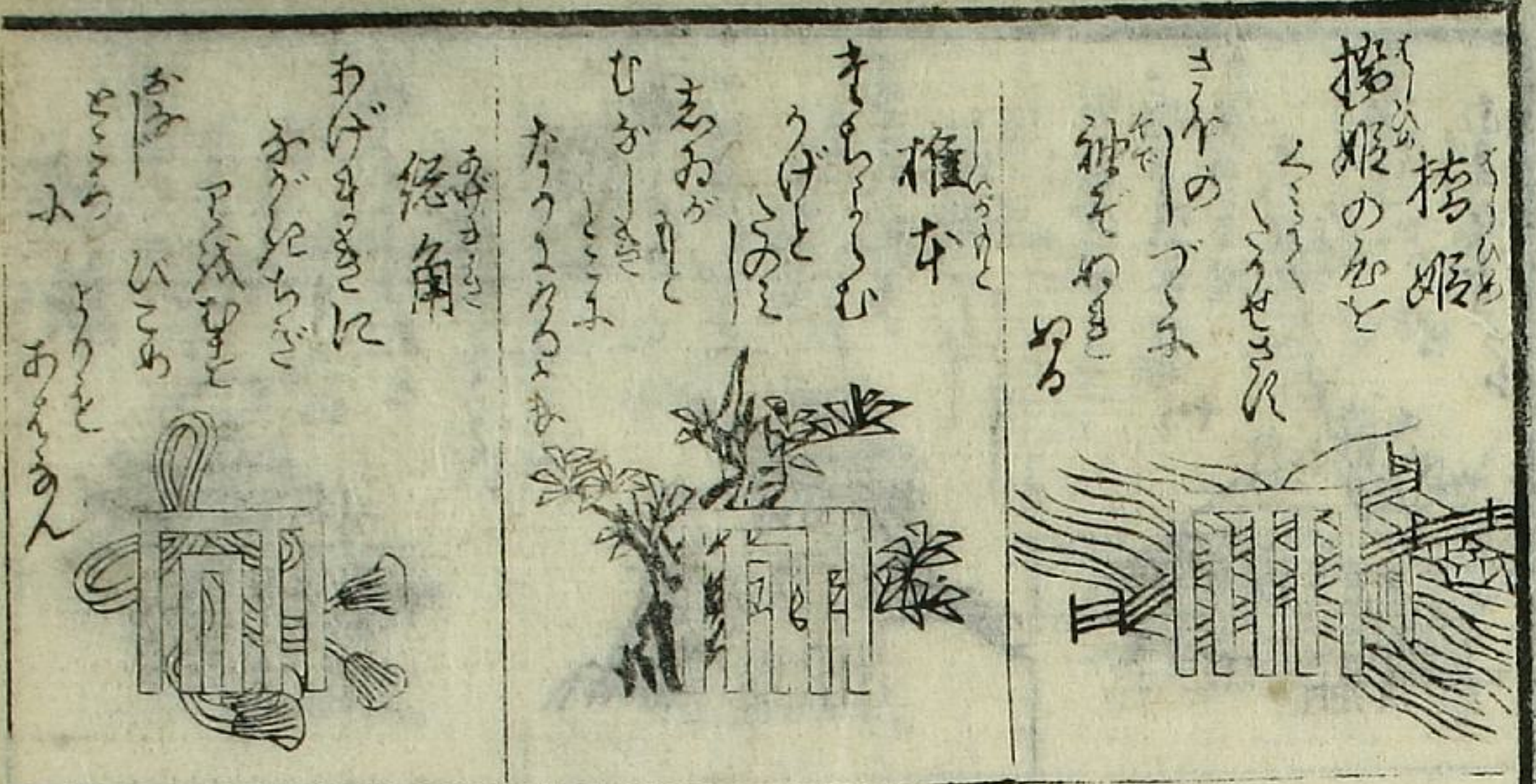
あまのこ
あまのこ
あまのこ
あまのこ

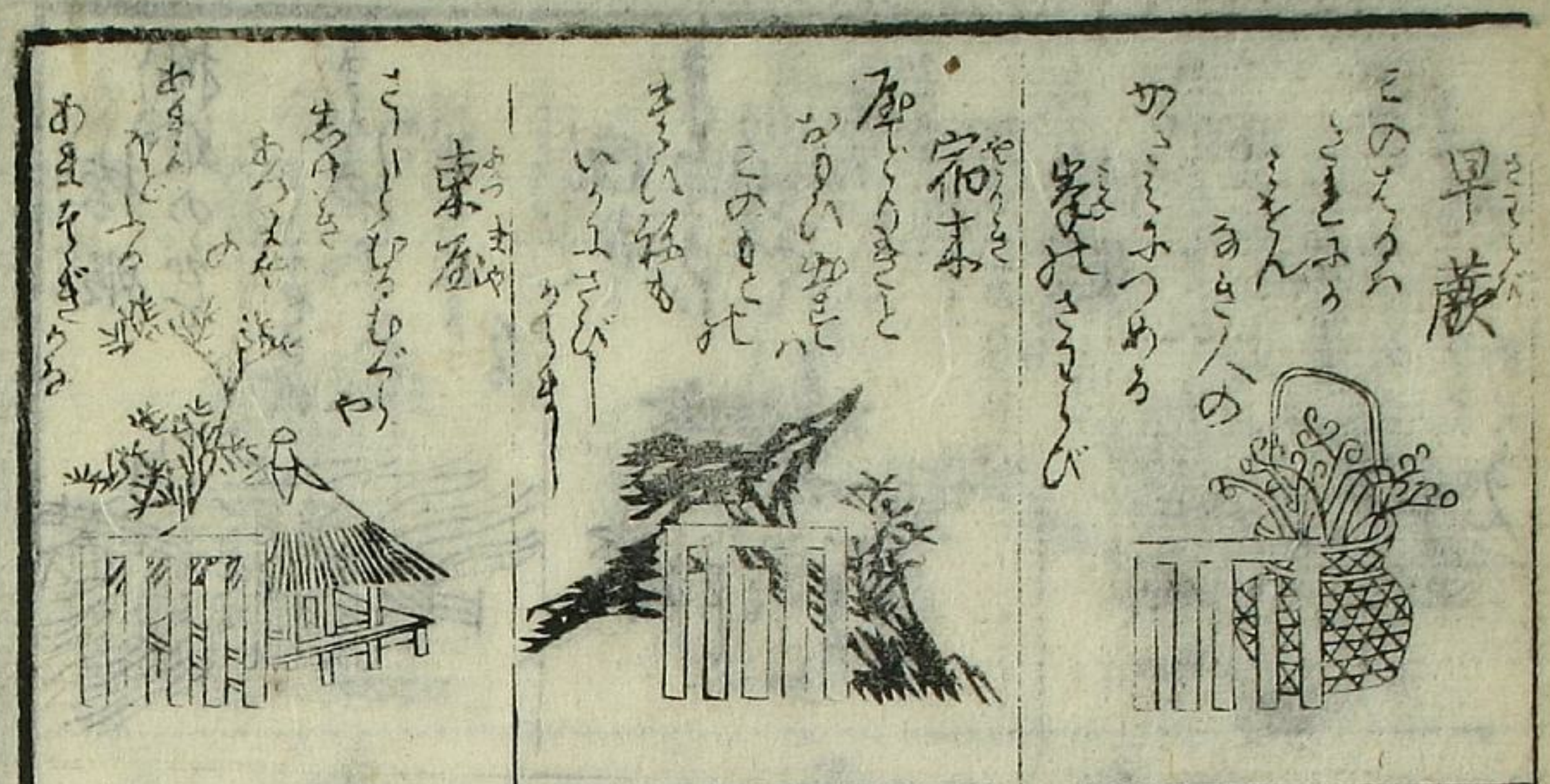
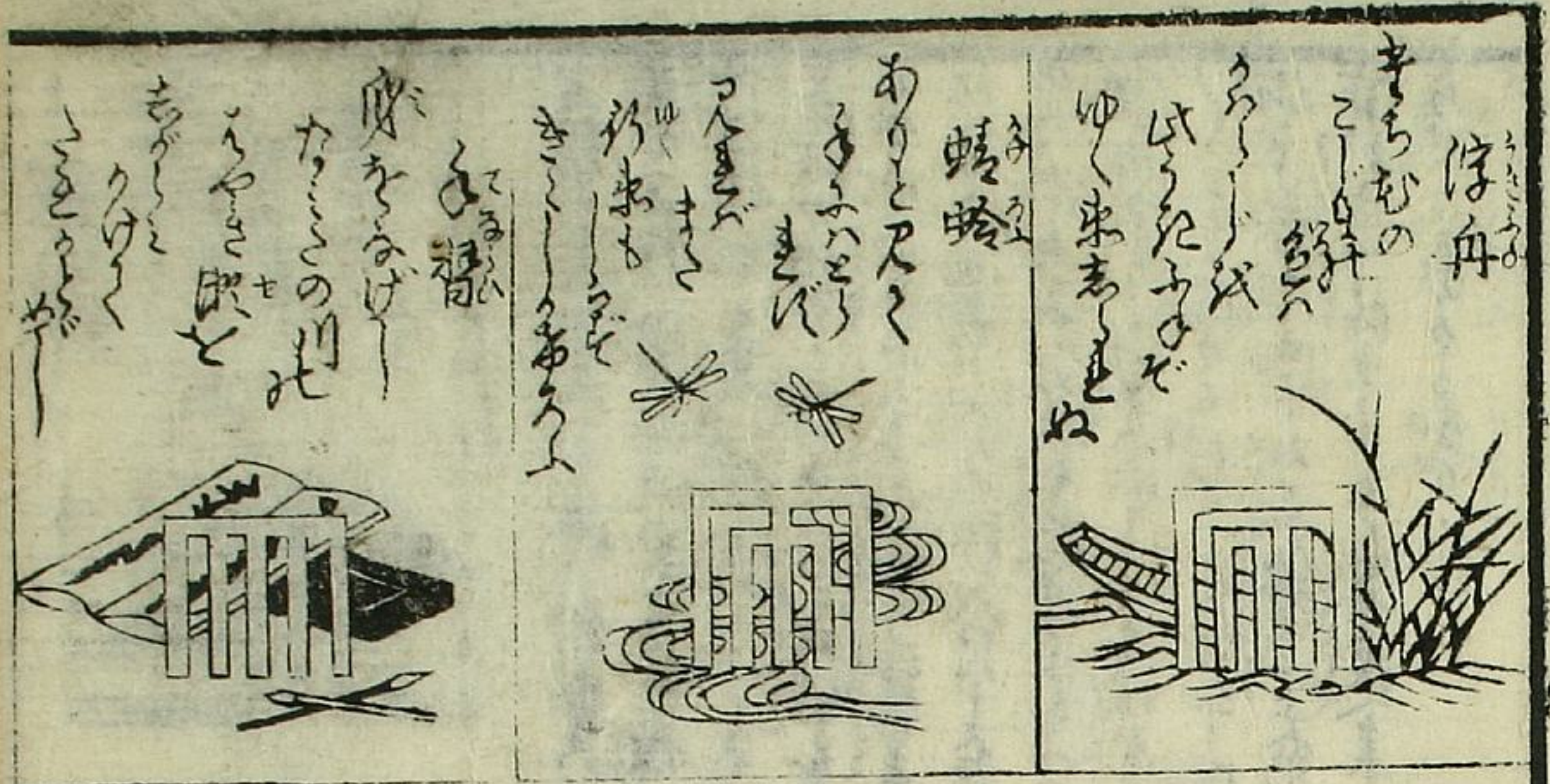


大江山
大江山
大江山
大江山
大江山

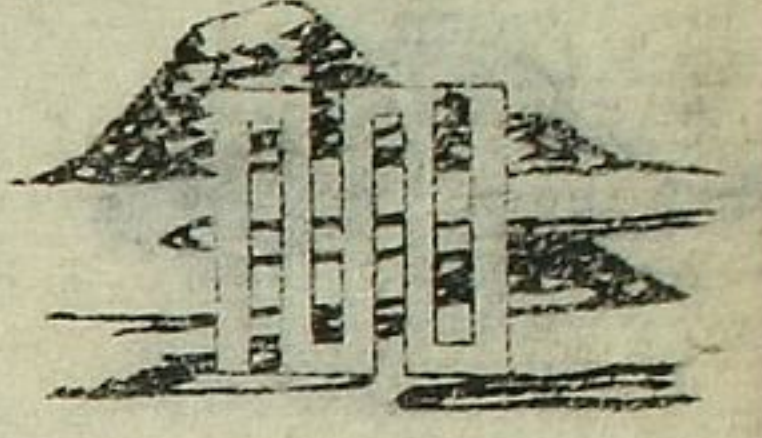
あまのこ
あまのこ
あまのこ
あまのこ
あまのこ







のりのりし
 おのり
 おのり
 おのり



有圖... 源氏... 院の... 院の... 院の... 院の... 院の...

三條院

公も

あも

世も

なも

世も

世も



寿帯要縁

史... 史... 史... 史... 史... 史... 史... 史... 史... 史...

能因法師

あ

三

三

あ

あ

あ

あ

あ



ころずんから身と不...
 うずんを法...
 まうま...
 女...
 え...
 か...
 ま...
 う...
 め...
 女...
 女...
 あ...
 め...
 あ...
 め...
 め...
 め...



川...
 大...
 け...
 ら...
 才...
 一...
 一...



一九ヶ月の九日小破と
 小破は小丸のくまを
 青麻ひらひら吹へ
 又生貝まらとわう
 うと若夫くまも代
 人よ死すく産婦
 しうひへーあまこ
 乳のきり究かり
 一條青麻ひらひら吹へ
 こくくまをくま後
 ねむりけと又くま
 又くまをくま後
 みるひらひら吹へ
 みるくまをくま後
 みるくまをくま後

ゆうーみいん
夜半内親王
 歌紀行
 音小皮
 演のれ
 わく浪
 の事
 わま
 神の



産お後合和若丸
 産おひらひら吹へ
 たいこま川と
 志ひうれきずぐま
 うろこなき魚くま
 こんぶまら日もち
 わらひくまひらひら吹へ



お中納言通房
 高砂乃
 屋とれ
 嘆より
 とる
 酒の
 ま
 ともあはれん



むんろのすの粉塵に
 こんろくくおすのり
 めんどなすのまき
 みろん粉まきかろ
 こひろ 粉まきかろ
 こひろのあひまき
 あまのこひろ
 粉まきかろ
 こんろくくおすのり
 めんどなすのまき
 みろん粉まきかろ
 こひろ 粉まきかろ
 こひろのあひまき
 あまのこひろ
 粉まきかろ



うろくろ
 人を
 初
 の
 ぶ
 け
 い
 め
 ぬ
 の
 を



藤原基俊
 命
 秋

樹香之方

龍腦	梅	一	梅仁	一
麝香	松	三	丁香	二
甘松	松	二	白檀	二
白檀	松	二	一	一
沉香	松	一	一	一
白檀	松	一	一	一
麝香	松	一	一	一
鹿茸	松	一	一	一
丁香	松	一	一	一
甘松	松	一	一	一
麝香	松	一	一	一
丁香	松	一	一	一
甘松	松	一	一	一

さんごうのり
 まい 牡丹 十のり
 くけ 牡丹 十のり
 えも きんこ 十のり
 むぎ あぶき 十のり
 えり めい 十のり
 さいごう 十のり
 ちんま 十のり
 〇さんごうのり
 ひんごうのり
 へり 十のり
 さいごう 十のり
 てあさ 十のり
 仁松 十のり

崇徳院



法性寺



右味製法

- 一麝香 猪一上つを入
- 一麝のふ ち一四一
- 一白ごん けりくと刻
- 一沈香 同り
- 一藿香 麝と之をまじりて
- 一甘香 麝と之をまじりて
- 一梅仁 けりくと刻
- 一菊花 花をちりちり

源兼昌



みちのり
 源兼昌
 漢語書
 の
 産ふ
 貴夜長ざめ
 とまじ園

志のゆ

- 小神一ちすけけりて
- 一井一塩一合入すくはり
- 雨此そりのめりて
- 土をちり乃血にちり
- 人乃血乃付るは生

た原たまげ捕



た原たまげ捕
 秋風よ
 月の
 新乃さやたさ

うきくるるたてうへ下を
 かくし血を血うらうて
 おつはたうらうらうて
 けこらひ地を成つたたを
 めししきとて

○おとろちれつまらふい
 どがられぬありををわらじ
 一 志城乃に成るるいと
 志んとせんしりあふ
 又るはあしとせんあふ
 又もけけしうし又も乃
 下くしとて落るるなり

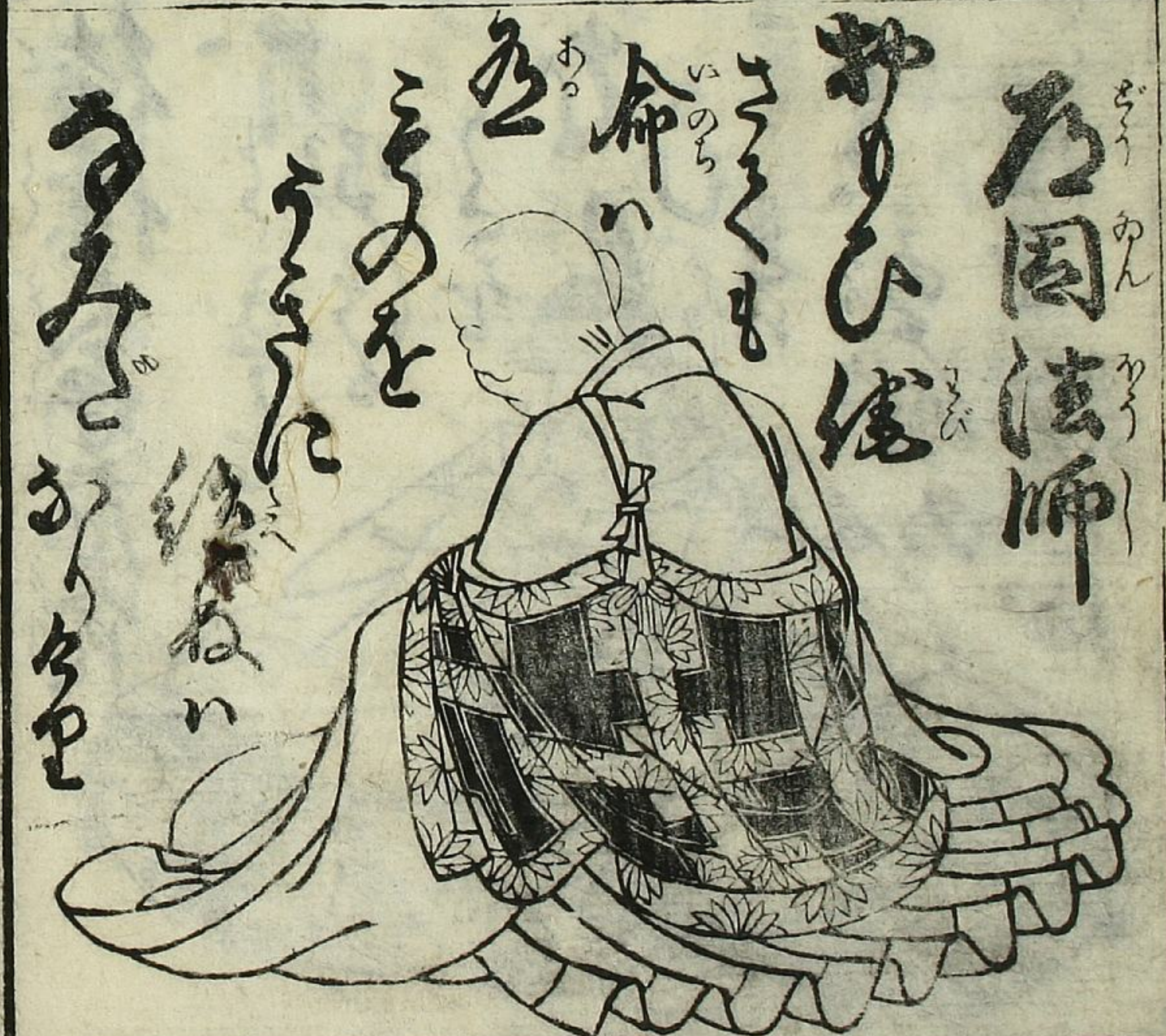


○と人だんをとせめろよふ
 下地とそつらにせき先
 うりやも二るんりうの
 へもにうりやすにめん
 へもせあしとて

○もくもけ是はだんが
 と豆のけをよたそめり
 ○そらでんちやよ下持あ
 をむめれあるは二るん
 を免う人にもかを二へ
 際しあにりかこらなる
 入めんそんしーかひめく
 其はあふり
 ○おしそもかそむら



ことかきとけし、仕まらん
 くらげこぞぞ、かまあど
 ことめりたんとしるまよ
 てし、美くまわうせん
 ありくをわくあこよし
 ありひのそわう梅乃ある
 なとをそあををける梅乃ある
 ○梅乃あるとたよよま
 美くありくとたし、梅
 すし、しへくまわうせん
 ○あせゆ、しゆをそあ
 し、せん、し、あせとそ乃
 う人をそあにど、かひあじ
 ひく、梅乃ある
 ○あせく、しゆをそあ



ことん、しゆをそあ、しゆ
 うめうめん、しゆをそあ
 ○あ、しゆをそあ、しゆ
 美く、しゆをそあ、しゆ
 か、しゆをそあ、しゆ
 其の、しゆをそあ、しゆ
 せん、しゆをそあ、しゆ
 ち、しゆをそあ、しゆ
 て、しゆをそあ、しゆ
 ○せん、しゆをそあ、しゆ
 美く、しゆをそあ、しゆ
 ち、しゆをそあ、しゆ
 て、しゆをそあ、しゆ



諸病わすなく

○西へ乃やまふに白濁子
をさしひびきしけり
又よまふもさしひびきあり
○煎乃ろうれいハ丸に美
を粉にりく煎取らへし
又丸と香してよし妙
○あつちとむらに黒大豆
を煎めてせんじびんあり
用へー又けろれ皮あり
○髪ぬけよふやくそ
かハ水ありひびきんあり
○おせほよんぬきり貝を
やれうんり粉とまきま

藤原公純の
たぐいん
この
や
志みん
今もあひり

布に色をあげて
○子きひハ蜜陀佛り
粉を乳してとれ糸さぬ
ゆりてらる用はひはなし
肥又をよそつもの

○まもをれハ煎せり
とひかりと煎せり
又六月六日 十六日 廿六日
のひつねりは死し
ひかりと煎せり
○ひびに棟乃実
こまうけとつり
うハのやせわち
○あざハ六月ハ
りうゆやれあり
ゆきやあざは

後惠法師
夜もと
わか
寝屋の
は

ありかたへくこ入るものちん
 りら本をいせまはれとるけ
 ころしれりさそけをくたて
 こころをたれんこころのこころ
 をつけけとるるるー
 〇なくぬぬとるるる
 悪石をいせまはれとるる
 こころをたれんこころのこころ
 ちんぬん人をたれんれれぬ
 せぬつけとるー
 〇いほぬぬくぬぬぬぬ
 大さくけつてくぬぬぬ
 らくぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 はたぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 はぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ

西行法師
 あまの
 月宮
 物を
 おし
 ころらぬ
 りの
 海うね

〇かまをくぬぬぬぬ
 山椒 白芷 川芎
 万葉子 せし香 陳子
 各々 右にぬぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 一冊に三巻つてぬぬぬぬ
 あらぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ゆぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 やうにぬぬぬぬぬぬぬぬ

寂蓮法師
 ひぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 模乃糸よ
 あまの
 夕暮

ひ方にむしてまきしとて
 服ふるなり



まきの辰
 夏の未
 秋の戌
 冬の丑

新衣服着初吉方

知	死	初	時
上	中	下	日
二九十八	二九十八	二九十八	二九十八
三十八	三十八	三十八	三十八
四十八	四十八	四十八	四十八
五十八	五十八	五十八	五十八
六十八	六十八	六十八	六十八
七十八	七十八	七十八	七十八
八十八	八十八	八十八	八十八
九十八	九十八	九十八	九十八



たけのまハ
 一ノハ
 二ノハ
 三ノハ
 四ノハ
 五ノハ
 六ノハ
 七ノハ
 八ノハ
 九ノハ
 十ノハ
 十一ノハ
 十二ノハ
 十三ノハ
 十四ノハ
 十五ノハ
 十六ノハ
 十七ノハ
 十八ノハ
 十九ノハ
 二十ノハ



十二月 乙月 梅月 深冬月
 十一月 初冬月 霜月 暮冬月
 十月 秋分月 仲秋月 十月月
 九月 長月 霜月 秋分月
 八月 七夕月 女月 八月月
 七月 文月 親月 七月月
 六月 水月 風月 六月月
 五月 早月 續月 五月月
 四月 卯月 若月 四月月
 三月 卯月 若月 三月月
 二月 卯月 若月 二月月
 正月 初月 睦月 正月月



お大僧心無事
 抄はあか
 世の
 我の
 雲をわれ神

十二月の和名
 正月 初月 睦月
 二月 卯月 若月
 三月 卯月 若月
 四月 卯月 若月
 五月 卯月 若月
 六月 水月 風月
 七月 文月 親月
 八月 七夕月 女月
 九月 長月 霜月
 十月 秋分月 仲秋月
 十一月 初冬月 霜月
 十二月 乙月 梅月 深冬月



春後雅經
 みる野乃
 小月
 秋
 くらとくらとくら

琴三絃乃多

琴ノハ樂器ノ一ツニシテ其ノ
ハ聲ノ響モ亦多岐ニテ其ノ
ノ音ノ一曰中一曰下一曰上
ノ音ノ天竺ノ音ノ如シ今
石川ノ人ニシテ其ノ音ノ
先達ニシテ其ノ音ノ
てハ筆此ノ如ク其ノ音ノ
換けしむはつはとちり
乃多ノ音ノ如ク其ノ音ノ
ノ音ノ如ク其ノ音ノ
ノ音ノ如ク其ノ音ノ
ノ音ノ如ク其ノ音ノ
ノ音ノ如ク其ノ音ノ
ノ音ノ如ク其ノ音ノ
ノ音ノ如ク其ノ音ノ

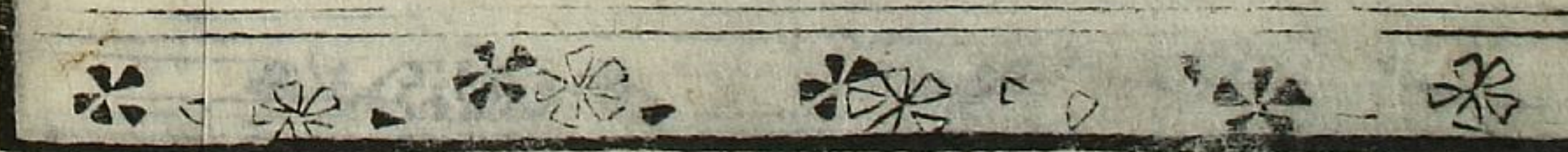
琴乃名取



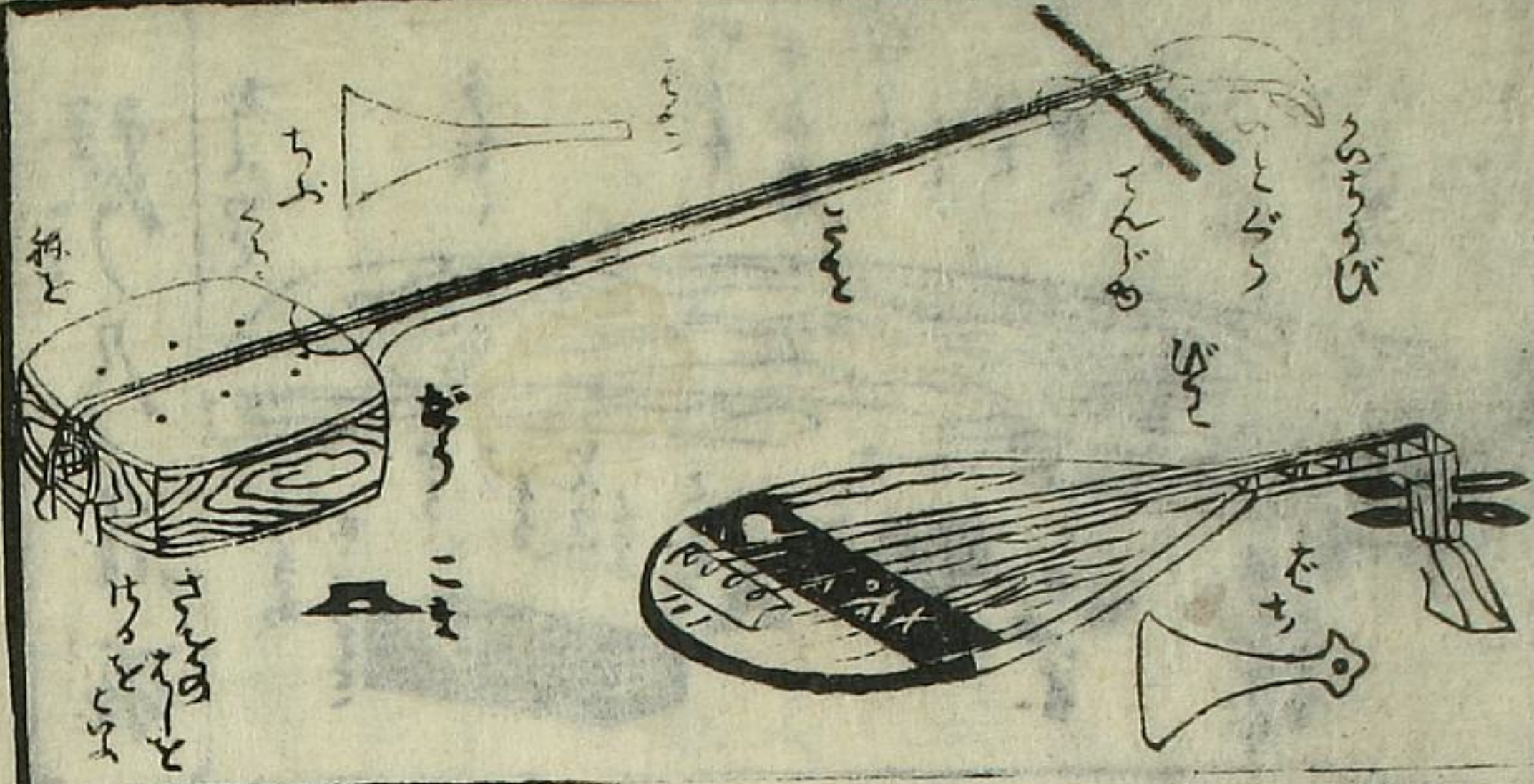
入道お大政大臣



指中細言定家



三條り名取



正二位家隆

風を

小川の

夕ぐわら

みそねを夏の

あつかりぬかる

うんころり日

正月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
う	ん	こ	ろ	り	日						

うけむけのり

木性	火性	土性	金性
う	け	む	け
の	り		

守本号とかな

孫はじんよじさしきんさんさん
うんころりてうんころりて
しんさしきんさんさんさんさん
うんころりてうんころりて

後鳥羽院

人も押

あらし

なま

世にあり

お抄と人身に





早稲田大学図書館
011888007140